



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

2015年売木村・愛知大学共同研究事業「売木村観光ビジョンの推進と地域づくりプロジェクト」

黍嶋 久好 (きびしま ひさよし)

愛知大学三遠南信地域連携研究センター 研究員 愛知大学講師



○ 登録者情報

所在地

愛知県豊橋市

略歴

- *1988年(昭和63)～2009年(平成21):国土庁、国土交通省「地域振興アドバイザー」
- *1996年・1997年(平成8・9)、2000年(平成12)～2010年(平成22):国土交通省・若者の地方体験交流支援事業(地域づくりインターン事業)企画運営委員 *2002年(平成14)～2003年(平成15):総務省自治行政局過疎対策室「高度情報化の進展を踏まえた過疎地域集落の強化に関する調査(地区力点検)」委員会委員
- *2005年(平成17)～2009年(平成21):愛知大学社会連携研究推進事業「地域づくりガイドライン・評価システムの開発に関する研究」事業責任者 *2006年(平成18)～10年(平成22):豊橋技術科学大学・愛知大学特別教育研究推進連携融合事業「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」人材育成・意識啓発アクションプログラム開発部会長
- *2014年(平成26):愛知大学三遠南信地域連携研究センター「県境中山間地における越境連携・交流の実態に関する調査」共同代表
- *2015年(平成27):長野県売木村まち・ひと・しごと創生有識者委員会会長
- *2013年(平成25)～:NPO法人三遠南信アミ理事長

著書・論文等

- ・三遠南信地域連携ブックレット『人をコンテンツにする地域づくり』共著、2016年、愛知大学三遠南信地域連携研究センター
- ・『越境地域政策への視点』共著、2014年、愛知大学三遠南信地域連携研究センター
- ・『都市・地域・環境概論』共著、2013年、朝倉書店
- ・『県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン』県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会・共著、2011年、豊橋技術科学大学地域協働まちづくりリサーチセンター
- ・『若者と地域をつくる』共著、2010年、原書房
- ・『三遠南信地域づくり読本』愛知大学三遠南信地域連携センター・共著、2010年、あるむ
- ・三遠南信地域連携ブックレット「小さな自治を育てる」共著、2006年、あるむ
- ・「三遠南信地域の観光・地域資源を活用した地域ツーリズムの形成」単著、2015年、愛知大学中部地方産業研究所
- ・「県境山村地域への外部人材移入施策に関する一考察」単著、2014年、愛知大学中部地方産業研究所
- ・「三遠南信地域の非営利活動と中間支援組織」単著、2013年、愛知大学中部地方産業研究所

○ 2015年売木村・愛知大学共同研究事業「売木村観光ビジョンの推進と地域づくりプロジェクト」

取組の内容

平成26年度に策定した「売木村観光ビジョン」の具現化に向けて事業調査・研究を大学・学生と村の人の参加により行い、現地調査、地域資源、地域の魅力等の発掘から、「600人の観光・村づくり」方策を推進することを目的としています。

(1) 観光資源調査の実施

平成27年度で予定されている催事に関して、現地でのイベント調査(来訪者、村民へのヒヤリング、参加活動による把握等)及び分析をしています。

(2) 現地調査での対象イベントは、次の月別催事としました。5月: 春色感謝祭(5/17)、6月: 田舎塾(6/13・14)、7月: 8月: 田舎塾(8/29・30)、9月: 運動会(9/19)、10月: マラニック(10/12)、11月: 秋色感謝祭(11/1)、12月: 1月: 現地報告会、2月: 売木村文芸祭(2月28日)です。

(3) 売木村での共住者の状況調査

600人の村人のうち、165名が移住(共住)者であり多様なキーパーソンがいる。この方々の連携・協力、地域(集落)との関わり状況等のヒヤリング及び交流集会を行いました。

(4) 売木村の7地区(集落)の地域活動に参加し、交流等の関与・観察調査を行いました。

(5) 売木村観光モデルコースを観光ボランティアガイドさんと踏査を行いました。

(6) 観光事業者及び地域団体の方々とのワークショップを開催しました。(3回)

(7) 先行事例地(村外)での学習に同行し支援を行いました。(1回、行政関係者、地域おこし協力隊、住民等)

実績

成果・観光村づくりへの課題

①アイデアを具現化するための実施主体がはっきりしない。②多くの人財がいるのに相互連携・協力が不十分ではないか。③多くの活動・取り組みがあるのに相互連携・協力が不十分ではないか。④ターン者の技能・経験(経歴)・熱意等を活かす仕組みがよく見えない。⑤一部の人々が過重負担にあえぎ、疲れているように見える。他方多くの村民の協力体制が不十分である。これらを行動の指針としました。

観光ビジョン推進のための多様なキーパーソンは存在し、また取り組み・活動も多数あるのに、それらを連携・協力させ、効率的に機能させるための組織が欠けています。観光に限らず、むらづくりでは重要な役割を果たす「ターン者(移住者)」が活躍できる、ないしは活動を保証・促進するための仕組みがない、ということです。その結果、人口600人の小村であるがゆえに、一部の人々が過重負担に喘ぎ疲れている、印象を受けた。共同研究の調査目的は「観光ビジョン推進と地域づくり」であるが、それらを起動させるための仕掛けづくりの方法と、持続的に動いていくための仕組みのあり方を併せて「600人の売木観光むらづくりに向けて」活動を起こす必要性に迫られています。600人の村人のうち、165名が移住・共住者です。

工夫した点や苦労した点

売木の観光要素分析

「観光むらづくり」は、観光施設の建設でなくても、「観光要素」に対する正確な認識をもつ必要があります。今回のアンケート調査では、「観光要素」として「観る」「交流する」「泊まる」「食べる」「買物する」「学ぶ」「遊ぶ」「やすらぐ」の8項目を設定し、それぞれ「現状認識」と「今後の必要性」をみました。各要素に対して5段階評価を付し(「非常にある」2点、「まあある」1点、「わからない」0点、「あまりない」-1点、「全くない」-2点)いずれかを(直感で)選択してもらった。なお「現状認識」と「今後の必要性」をそれぞれ回答してもらうことで、今後の観光むらづくりの方向性を探っています。プラスは正の評価、マイナスは負の評価として数値で表しています。

ひとことPR

600人の売木観光・むらづくり —現住人(びと)・交流人(びと)・活動人(びと)・共住人(びと)の小さな“ずく”を出す—

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
○	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

愛知大学	http://www.aichi-u.ac.jp
三遠南信地域連携研究センター	http://www.aichi-u.ac.jp/san-en
売木村役場	http://urugi.jp

連絡先

メールアドレス	au241007[アットマーク]vega.aichi-u.ac.jp	その他	
---------	------------------------------------	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。